

## 台湾の喪葬について(2)

岡田 栄 照

台湾に於て旧慣としての喪葬行列は股賑を極め経費も莫大であった。近年、現政府は浪費の風習の改善を奨励している。従前の葬列で、数十年前前の大出喪と称せられる行列順序は大略次の如くである。

- 1 猪羊 2 開路神 3 放銀紙 4 草龍、同安及安溪人の習俗 5 銘旗、代数不同旗色不一 6 孝灯 7 吉灯 8 大鼓吹(音楽団出喪行進曲) 9 彩旗 10 地理師 11 銘旌 12 督旌、掌銘旌者乗轎 13 礼生轎 14 大牌執事、肩祀屋官 15 鼓吹小 16 涼傘、台傘 17 祀屋官、乘四人轎 18 大牌執事、肩点主官木牌 19 鼓吹小 20 涼傘、台傘 21 点主官、乘四人轎 22 輓聯、輓軸 23 北官、子弟音楽団 24 香亭 25 花車 26 外江音楽団、北京、上海等の音楽団 27 誥封亭 28 鼓吹小 29 掌封亭者、四人轎 30 花轎 31 什音、北管音楽の一種 32 像亭、死者遺影 33 歌仔唱 34 魂轎 35 芸閣山半、二十四孝などに扮装 36 南管、郎君、奏泉州南管の音楽団 37 紙轎、死者の人形に擬し子孫が持ちあげる 38 枢旌 39 掌枢旌官 40 幼吹、悲哀の細楽を掌る 41 道士 42 金童玉女 43 和尚 44 紙旛 45 靈柩、孝男号哭随行 46 遺族

男 47 一般送葬者 48 遺族女

現行国民礼儀範例第十九条の規定では「出殯時、親屬向遺像或靈位行啓靈礼後、撤幃、昇柩啓行、其次序如左……一、開道(標明○○○○○之喪)。二、儀仗。三、樂隊。四遺像。

五、靈位(孝子或孝女、或置於遺像前) 六、靈柩。七、重服親屬。八、親屬。九、送殯者。第二十條規定「送殯親友、宜着素色或深色服装並佩帶黑紗或素花。」「家屬可懇辭親友送殯」開路神は高さ約一丈二尺、紙と糊で製作され、二尊あり土地神と山神、あるものは文官、また武官、右手に戈、左手に盾をあげ悪鬼を駆逐させる機能ありとせられる。

絵図二教源流搜神大全、歴代神仙通鑑、集説詮真、破除迷信全書、事物紀源、古今圖書集成・神異典……などに説明が加えられている。

草龍は稻束で龍形とし、その一端に点火し冥路を照明する。

孝灯は三代大父、五代大母などと書写されるが往々にして

現実的代数より増加してしるされることもある。三代は麻布、四代は浅黄布、五代は黄布、正五代は紅布を巻きつける。円錐形で白地に藍字である。

吉灯は黄色で紅字の「百子千孫」などの字が書かれている。

輓軸、輓聯は故人の社会的地位、名声を如実に反映し、世人の好奇心、讃歎の対象ともなるものである。

例えば「本省聞人林熊祥先生喪札紀実」(民国六十二年三月に逝去、林衡道先生の尊父)によって政界、官界、財界、学界、等々から贈られた多数のうちからその一部を披見してみよう。蔣中正、文采貽徽、敵家淦、鴻学懋績。蔣経国、耆德清徽。何応欽、碩德長昭。謝東閔、德望長昭。杜聡明、碩德永存。高玉樹、高風安仰。倪文亜、績学垂芳。戴炎輝、積厚流徽。

輓額についての次のエピソードはユーモラスにしてアイロニカルである。

葬儀は孝心の率直な表現とみなされ、時に誇大な宣伝があつても別に怪しむに足らないことであり、多少の法螺についても寛大である。かつて袁世凱が大總統の折、福州のある家が彼の偽の輓額を掲げて行列した。その家に怨恨を抱く者が北京方面に向つて檢舉した。折しも袁世凱は皇帝たらんとして陰謀を企画していた矢先、人心収攬の為、その檢舉書を見

て大笑し、父母に孝養を尽くしている故に、追究するに及ばずとして不問に付したと伝えられている。

棺をかつぐ人は通常、四、八、十六、二十四、三十六人等々。現代人の多くは「豆腐肩・鴨母蹄」なるが故に「土公仔」を依頼する。

昔は同族の男が担当した。葬列に於ては雑談を排し、いやしくも「重たい……」などと軽々しく口にすべきではない。

千古以来、人を愚弄するものとされながらも出棺日の禁忌は現在もよく守られている。

重喪日として正月甲日、二月乙、三月戊、四月丙、五月丁、六月己、七月庚、八月辛、九月戌、十月壬、十一月癸、十二月己、及び毎月の己、亥の日。以上の日が回避できぬ時は禳重喪法が施行される。

正、三、六、九、十二月には六庚天刑、二月は六辛天庭、四月は六壬天牢、五月は六癸天獄、七月は六甲天福、八月は六乙天徳、十月は六丙天威、十一月は六丁天陰と黄紙に硃書し小函に入れて出葬まで棺の下に置き、凶葬の際、或は択日しない時は棺上に置く。沖剋日と七月は鬼月とされるので喪家に不利となる。

銘旌は亡者を表彰するものであり、官階姓名が書写され、古くは朋友が敬贈し、今、台湾では女婿、孫婿が贈呈する。女婿は紅色、孫婿は黄色。昔は官位を有する人士に使用が許

されたが、現在では庶民も使用することがある。

一般に通用する布幡は長さ三尺七寸幅は三寸七分、三魂七魄の寓意をこめるが、必ずしも魂名、魄名を書くとは限らないが、姓名、生卒の年月日、左右に分れた両側の細い箇所詩句が記入される。左に「金童引西方路」右に「玉女後随極楽」など。

出棺の行列に於て、女性は「春仔花」を頭に挿して歩いた。孝男は柩に随行して一尺四寸四分の長さの杖を握り上部に麻布を結びつける。この孝杖の長さは蜀尺四寸四は「蜀世伝蜀世」の意味の諧音である。

行列の中途にあつて一つの籠をさげて先になり後になって紙銭を散布するが「撒買路銭」と称しているが街路の美観を損じるので取締の対象ともなる。

花車の大半はジープ風の車の左右後の三面を生花で飾る。花環、花籃が少い場合、親友に花車の参加を要請する。台北県板橋で約三十年前、五、六百台を算する花車の大行進があった。

鼓吹は南管・北管・或は西楽のプラスチックバンドで、成員の多少に問題があり、経費の面で数年前に一人五百元内外、大規模の行列では三十人以上乃至百人。しかし吹奏可能な成員は数十人であり、単に服装を統一し、楽器を携行している姿だけのことも多い。

祭品供物に関する禁忌は極めて多く、中華思想から排斥される果物としては番茄(トマト)番石榴(パンザクロ・グワーバ)は番蕃蚤と通じ、価格が安価なので不敬にあたるとされる。番石榴は俗称「奈茂」<sup>ノモ</sup>どうしようもない草の意<sup>ノモ</sup>どこにでも生長し「狗屎茂」「雞屎果」と蔑称され、種子が多く硬いので消化しがたく犬の胃腸を通過して排泄され発芽するとされ、褻瀆の至りとされる。

芸閣に取って代り近年出現したのは「電子琴花車」であり、エレクトーン音楽を放送しつつ車中で白色の喪服を着用した孝女が哀歌を唱い、「還聽說有美女唱歌、甚至跳脱衣舞、像做喜事一般、不倫不類。大概現在地獄比人間舒服、所以生人以此欲送死人」洪惟仁、台湾礼俗語典。とある。甚しきに至りては一連数十台のこともある由。

紅樓夢(六十四回)に葬儀の美々しいことに感心し、羨望するものもあるなかに嫉妬心の強い学者先生をして「喪礼与其奢易若儉戚」(喪礼は奢りて易しからんより、むしろ儉しやかにして戚しむにしかず……)と云わしめてゐる。

もと台湾省文献委员会主任委員林衡道先生の御教示と、岡山大学に留学せられた呉徳芬さんの御協力をいただいた。

△キーワード▽ 葬儀、台湾

(寺院住職)